

米CPIがインフレ高止まり示唆で株安債券安に



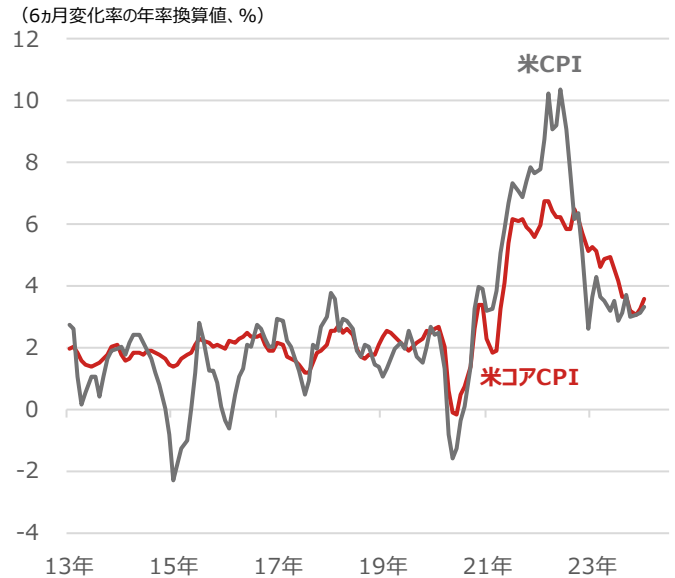
シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米CPIは市場予想を上回る内容

米労働省が13日に発表した1月の米CPIは、市場予想を上回る伸びを示し、市場の早期の利下げ期待に冷や水を浴びせる格好となりました。

1月のCPIの上昇率は前年同月比3.1%と、23年12月の同3.4%から鈍化したものの市場予想の2.9%を上回りました。変動の大きいエネルギーと食品を除いたコアCPIの上昇率は同3.9%（市場予想は同3.7%）と、伸びは23年12月と同じでした。物価の実勢を示す6か月変化率の年率換算値をみても、米CPIの上昇率は3.3%、コアCPIが3.6%と、ともに23年9月以来の伸びとなるなど、今回のCPIは米国のインフレ圧力の根強さを示す内容だったといえます（右上図）。背景にはCPIで高いウェイトを占める住居費の高止まりがあるとみられ、1月の住居費は前年同月比で6.0%上昇しました。

米CPI（消費者物価指数）とコアCPIの6か月変化率の年率換算値



期間：2013年1月～2024年1月、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

ポイント② 米金融市場は株安・債券安で反応

インフレの高止まりを示唆する米CPIを受けて、市場は株安・債券安（利回りは上昇）で反応しました（右下図）。FF金利先物市場が予想する24年末のFF金利は、CPIの発表を受けて大きく上昇し、市場で高まっていた早期利下げ期待が急速に後退したことが、株安・債券安につながったと考えられます。

ただ、FRB（米連邦準備制度理事会）が重視する米PCE（個人消費支出）コア物価指数の6か月変化率の年率換算値は、23年12月時点で2か月連続で1.9%と、2%の物価目標を下回っており、住居費の影響を受けやすいCPIとは異なる動きとなっています。現時点でFRBの年前半の利下げシナリオは崩れておらず、市場への影響は限られるといえます。インフレへの懸念が再び強まりつつあるなか、物価に関するデータが市場の関心を集めることになりそうです。

FF金利先物市場が予想する24年末のFF金利とS&P500種株価指数・米10年国債利回り



期間：2023年7月3日～2024年2月13日、日次
・FF金利はフェデラル・ファンド金利
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。